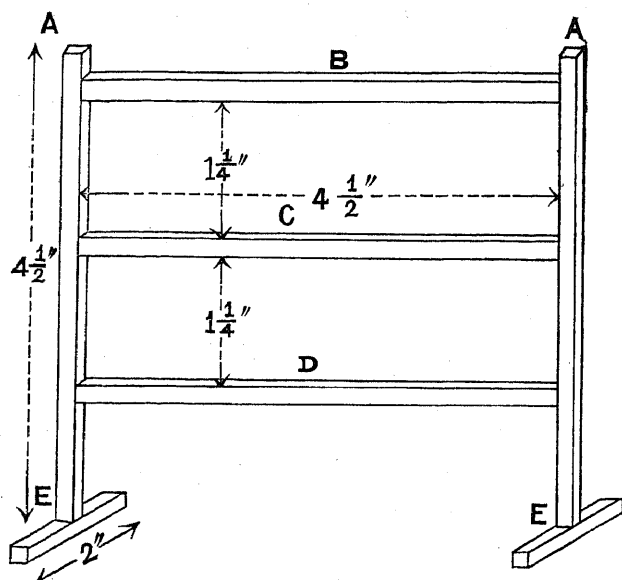


家庭教育 玩具の造り方
手工應用

第二十三圖 手拭架かり



藤 五 代 策 譯

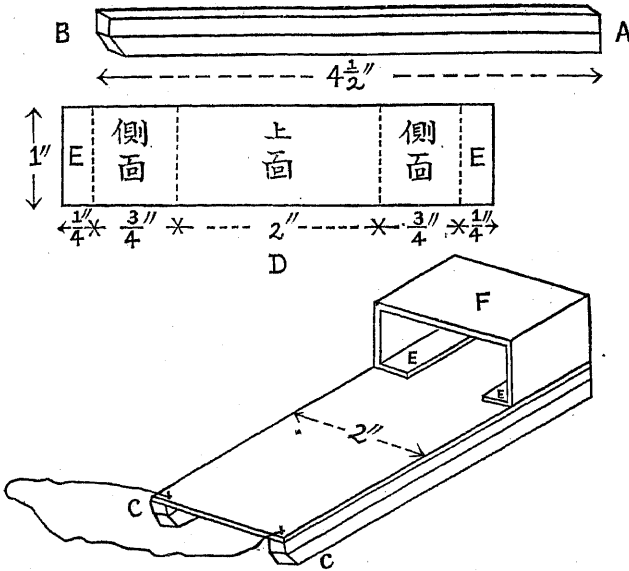
燐寸棒¹/₂のを五本と、²/₂のを二本とを切る。A
に示せる如く兩側なる二本の柱の頂端を削りて、
上端より¹/₂隔りたる所にBなる横木を付け、之よ
り¹/₂を隔て、第二の横木Cを付け、同じく¹/₂
隔て、第三Dを付ける。それが立派に出来たら、
の棒の中心を求めて、之を兩側の柱の下端に付け
るのである。接ぎ目毎に留針ピンを刺せば堅牢になつ
てよろしい。

第二十四圖 櫛

平板を長⁴/₂幅²/₂に裁ち。⁴/₂長の燐寸棒を四
本造りてA圖に示せる如く二本宛膠にて貼り付
け、其の各の一端Bを削り去りて、Cの如く平板
の底の兩側に付ける。

次に平板を長⁴/₂幅²/₂に裁ち、之にD圖の寸法に

よりに鉛筆にて線を引き、其上を小刀にて軽く刻み目を付けて、Fの如く折り、而して兩側のEの



部を前に造つた臺の後端に付けるのである。臺の
前部に細かい留針を二本叩き込み、其頭に糸を結
び付けて曳綱とする。

少し入り組んでは居るが、Fの兩側及後側に平
板を貼り付けて凭掛られる様にすればなかく具
合がよろしい。

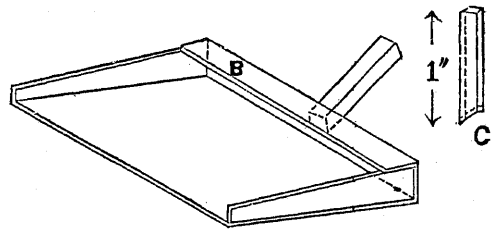
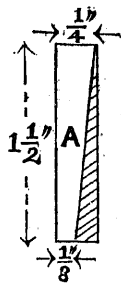
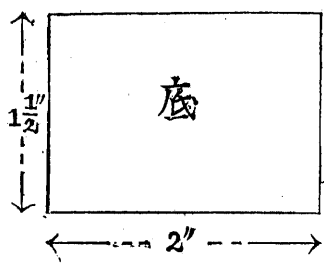
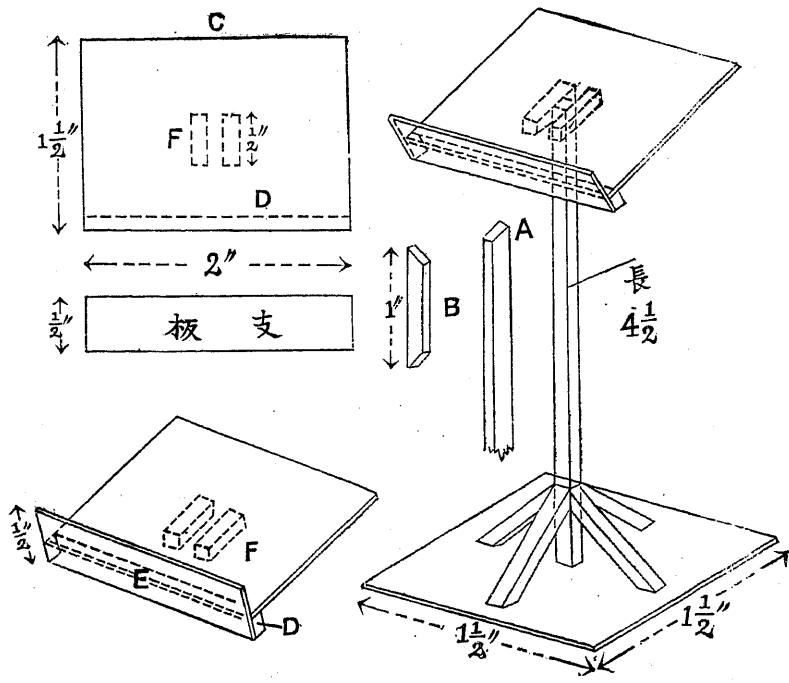
第二十五圖 樂譜臺

樂譜臺は作り方が餘程面倒であるから注意せね
ばならぬ。先づ臺と柱から初めやう。

燐寸棒の長 $\frac{1}{2}$ の一本と、 $\frac{1}{2}$ のを四本切り、
平方の平板を一枚造りて、柱の頂端をAに示
す如く四十五度の傾斜に削る。今度は平板の中心
を求めて此點に柱を建て、臺の裏から柱に通して
留針を叩き込むのである。それが出來たらBなる
短かい方の四本を取りて各其の兩端を圖に示す如
く四十五度の角度に削りて、膠を以て柱の四面と
臺とに着ける。そこで膠の乾く間に上部の机の部
分を作るのである。

先づ平板を長 $\frac{1}{2}$ 幅 $\frac{1}{2}$ に裁ちて、其の一方の縁
の裏にDなる長 $\frac{1}{2}$ の燐寸棒を貼り付け、今度は今
一つ長 $\frac{1}{2}$ 幅 $\frac{1}{2}$ の平板を造りて支板となし、Eに示

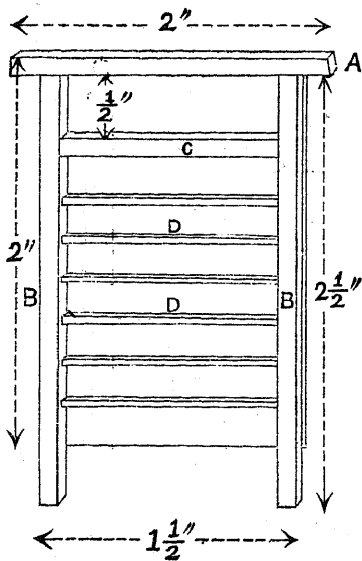
せる位置に着けるのである。次に燐寸棒¹長のも



の二本を作りて、机の裏面にFの如く各竝行に着けるのであるが、此の二本の間隔は恰度前に作つた柱の頂端が其間に嵌まる様にせねばならぬ。それが完成したらば、机の部分と柱の部分とを附着すれば樂譜臺が出来上るのである。

第二十六圖 芥取

平板を長²幅^{1 1/2}に裁ち、之を底となす。次に



Aに示せる如き兩側の側板を造り、別に長^{2 1/2}幅^{1 1/2}の板を作りて後側の板となす。それが出来たら、此の四枚の板を膠で組立て、今一枚Bなる長^{2 1/2}幅^{1 1/2}の平板を裁ちて兩側及び後側の板の上に都合よく貼り着けるのである。

柄としては燐寸棒を長^{2 1/2}に切りCの一端を圖の如く斜に削りて取付けるのである。

第二十七圖 洗濯板

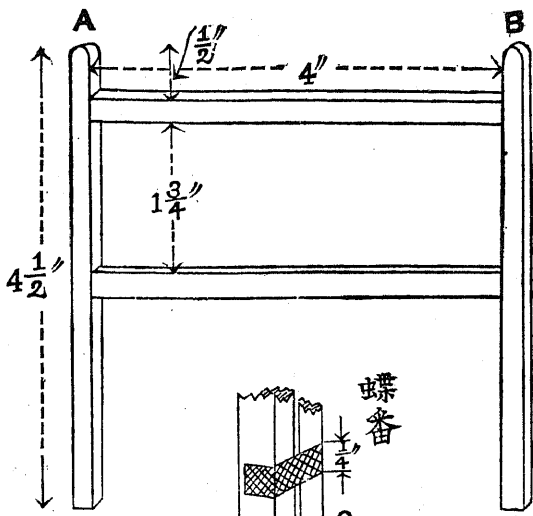
平板を長^{2 1/2}幅^{1 1/2}に裁ち、其の短い方の縁の上

Aなる長^{2 1/2}の燐寸棒を着け、左右兩側の縁の上になる長^{2 1/2}の棒を附着する。それからAの棒から^{1 1/2}隔りたる所にCなる棒をBとBとの間に嵌める。今度は此のCに並行してBとBとの間に、Dなる平板を幅^{1 1/2}に裁ちたるもの六本を、同じ間隔に着けるのである。

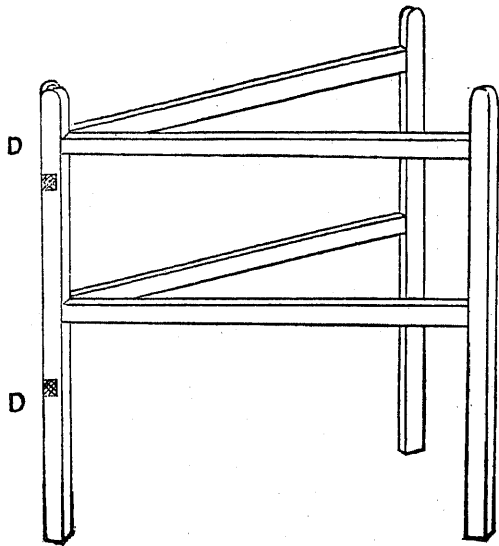
第二十八圖 衣紋掛

此のお玩具を造るには八本の燐寸棒が要る、即ち四本は^{1 1/2}に、四本は^{2 1/2}に切るのである。長い方の四本を取りてA及Bの如く其の上端を丸く削る。そこで與へられたる八本の棒を圖に示せる寸法によりて組立て、上圖の如き框を二個造るのである。それが立派に出来たならばC圖の蝶番の製作に取りかゝる。

幼稚な子供にとりては、衣紋掛が自由に開閉する様に蝶番を着けるのは、なかく困難な事である、それで此困難を除く爲めに、茲には極めて簡便な方法を述べやう。先づC圖の如く幅^{1 1/2}の木綿



布片又は丈夫な紙を取りて、二つの框を合せて其の一方の柱の前面及び側面(C圖參看)に廻して貼



る。斯くの如くして下圖のDの位置に貼り附くればよろしいのである。